



愛知工業大学  
愛知工業大学情報電子専門学校  
愛知工業大学名電高校  
愛知工業大学附属中学校

目次:	
学園辞令交付式	2
大学年度始め式	3
学長賞に4氏	3
設置校で卒業式	4
設置校で入学式	5
施設整備進む	6
吉村選手ら表彰	7
ロボカップ	8

発行所  
名古屋電気学園  
〒470-0392  
豊田市八草町八千草1247  
TEL (0565) 48-8177

# 学園新理事長に後藤泰之氏

## 愛工大学長を兼務 理事会で決定

### 「速やかな意思決定で難局を乗り切る」



若水キャンパスで教職員の結束を呼びかける  
後藤泰之新理事長

学校法人・名古屋電気学園は五月九日理事会を開き、後藤淳理事長(88)の退任と、後藤泰之副理事長(58)の五月十日付での理事長就任を決めました。

### 理事長職45年・淳氏は学園長に



学園長・総長に就任した  
後藤淳前理事長

後藤泰之新理事長は四期目の愛知工業大学学長を兼務します。就任後に若水キャンパスを訪れた後藤泰之理事長は「附属中学と名電高校は、すでに十八歳人口が減少する二〇一八年問題のただなかにある。双方の連携を深め、学園全体が一つになって同じ方向を目指すさなければ厳しい状況を乗り越えられない」と教職員の結束を強く呼びかけました。理事長を四十五年にわたり務めた後藤淳氏は、学園長・総長に就任しました。

このたび、五月十日付で学園理事長に就任し、学長と理事長という難しいポストを兼務することになりました。今後は、教職員の皆様のお力をお借りして、学園、大学、高校、中学、専門学校の一層の充実、発展に努めてまいります。と思っています。

前理事長が、昭和四十七年の二月に四十四歳で理事長に就任されてから、四十五年の歳月が経過いたしました。当時の大学は、工学部と工学研究科修士課程という規模でした。その後、在任中に学園は、

## 就任にあたって

後藤泰之理事長

工科系総合学園として、現在の規模に飛躍的に発展いたしました。

こうした本学園の発展、充実、前理事長の強いリーダーシップのもと、教職員各位のご尽力によって成し遂げられました。あらためて前理事長をはじめとする多くの先人たちに對し、敬意を表するとともに、関係各位に心から感謝いたします。

学園を取り巻く情勢には、厳しいものがあります。まず、就学人口の減少にどう対処し、学園の充実、発展をどの

ようにして実現するのか、ということがあげられます。また、設置学校はそれぞれ解決しなければならぬ諸課題に直面しています。

困難な状況を克服するためには、これまで以上にガバナンスの強化による合意形成の迅速化を図る必要があります。

設置学校の抱える様々な問題に對して、設置学校の実情を理解し意見を尊重するとともに、法人の立場から十分な検討を行い、可能な限り速やかな意思決定を行わなければ

なりません。そのような時こそ、教職員の方々のご理解、ご協力が重要になると思っています。学園の充実、発展のため、皆様の一層のご尽力をお願いいたします。

就任して間もなく、まだまだ手探りの部分もあります。が、学園が一丸となって困難な状況を克服し、良き伝統を継承しつつ、さらなる発展、充実を実現するため全力を尽くす所存です。教職員の皆様におかれましても、一層のご協力、ご尽力を重ねてお願いいたします。

# 28年度学園の新体制スタート

四月一日付の人事異動で学園の新体制がスタートしました。この日は学園の辞令交付式と大学の年度始め式がそれぞれ行われ、後藤淳理理事長が「力を合わせて二十八年度のスタートを切っていただきたい」と教職員を激励しました。

平成二十八年度辞令交付式は本部棟で、新規採用者、任命・昇格者の順に行われました。新規採用者は大学教員十三人、高校教員四人、



後藤淳理理事長を囲み記念撮影する新規採用の皆さん

## 学園辞令交付式

中学教員一人、事務職員一人の合わせて十九人です。任命は大学教員が十人で、後藤泰之学長(再任)、学長補佐に杉野丞教授、服部洋児教授、津田紀生教授、曾我部博之教授、櫛田玄一郎教授、研究支援本部長に澤木宣彦教授、図書館(再任)に吉賀憲夫教授、地域防災研究センターに横田崇教授、エコ電力研究センター長に雪田和人教授です。高校教員が二人で、岩間博校長、久保芳孝学監です。また昇格は大学教員十一人、後藤尚之・学園事務局長ら事務職員九人です。一人ひとりに後藤理事長から辞令が交付されました。

後藤理事長は新規採用者に対するあいさつで「皆様には縁があつて名古屋電気学園のそれぞれの学校においていただくとともに、四つの学校が一つになり、力ある学園になるようご努力いただきたいと思ひます。今年が一段と輝いた良い年になりますよう、力添えをお願いします」と述べました。

## 新規採用19人、任命・昇格32人



任命の大学教員の皆さん



任命の高校教員(左から2人目が岩間校長、右端が久保学監)



昇格の大学教員の皆さん



昇格の事務職員の皆さん

### 新規採用

【大学教員】鈴置保雄教授(電気学科)、清家善之教授(電気学科)、北出幸夫教授(応用化学科)、早川義一教授(機械学科)、牧野敦教授(機械学科)、生津資大教授(機械学科)、中村吉男教授(土木工学科)、小野木克明教授(情報科学科)、上羽牧夫教授(基礎教育センター)、丸山恭司准教授(経営学科)、倉橋奨講師(土木工学科)、今井智子講師(基礎教育センター)、史文珍助教(経営学科)

【中学教員】後藤滋樹教諭(事務職員) 青木陽一課長(情報システム課)

### 任命

【大学教員】後藤泰之学長(再任)、杉野丞学長補佐(建築学科教授)、服部洋児学長補佐・入試センター長(再任)、岩間博校長、久保芳孝学監(再任)、澤木宣彦研究支援本部長(電気学科教授)、櫛田玄一郎学長補佐(機械学科教授)、澤木宣彦研究支援本部長(電気学科教授)、吉賀憲夫図書館長(再任(基礎教育センター教授)、横田崇地域防災研究センター)

【高校教員】伊藤誠教諭、寺澤勇教諭、田中優子教諭

### 田中勇也教諭

### 昇格

【高校教員】岩間博校長、久保芳孝学監

【大学教員】岩月栄治教授(土木工学科)、小池則満教授(土木工学科)、瀬古繁喜教授(建築学科)、中井孝幸教授(建築学科)、菱田隆彰教授(情報科学科)、河辺義信教授(情報科学科)、中村豪教授(基礎教育センター)、加藤久佳教授(基礎教育センター)、村上博哉准教授(応用化学科)、武田美恵准教授(建築学科)、巖佐正智准教授(基礎教育センター)

【事務職員】後藤尚之事務局長、川出善晴事務局常任顧問、伊藤忍忍部長(財務部)、岩井貞二事務部長(エクステンションセンター)、伊藤昌典次長(財務部)、廣田憲治課長(警備課)、奥野佳宏課長(会計課)、山田真吾課長(庶務課)、加藤聡課長(教務課)

# 中・高校長に岩間氏 事務局長は後藤尚氏

【高校教員】伊藤誠教諭、寺澤勇教諭、田中優子教諭

# 大学年度始め式

大学の年度始め式は八草キャンパスで学園・大学の教職員が出席して行われました。後藤淳理事長が建学の精神からひとといて愛工大が果たす役割について説き、後藤泰之学長はこれから取り組むべき課題について教職員の協力を求めました。

後藤理事長の挨拶要旨  
私立大学については学生の入学に関しての規制が厳しくなってきたことが言われています。さらに少子化が進み、去年や一昨年の子

供は百万人しか生まれていません。いよいよ私学を取り巻く状況は厳しくなります。五十七年前に大学ができたとき、自由・愛・正義の建学の精神を打ち出しました。日本はものづくりに特化しすぎ、数年後に公害の問題がでてきました。これを踏まえて創造と人間性が教育の場でのモットーになりました。

世界で貢献できる、そういう卒業生の活躍が愛工大への評価として戻ってきます。

## 「本学の存在価値高めよう」



挨拶する  
後藤淳理事長

ます。この教育の場で社会に貢献できる人間を育てるため、これからの一年、ぜひ頑張っていたきたいと思えます。

### 後藤学長の挨拶要旨

明日は新入生一三四八名を迎え、昨年より百名ぐらいい少ない入学式になります。入学の定員超過率のし

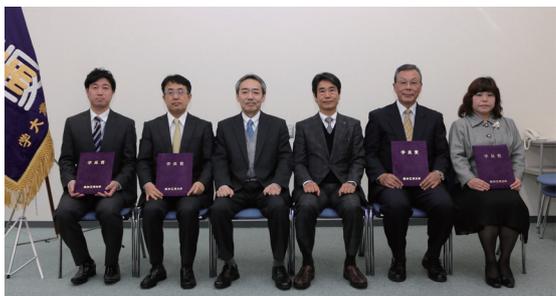


挨拶する  
後藤泰之学長

ばりが早速今年度から始まっています。加えて定員増に関連する認可申請を出し、かなり絞ったことが影響しています。そういった中で迎える学生一人ひとりが満足して学んでいけるよう、皆様方の力をお借りしたいと思えます。キャンパスの整備は順調に進み、あと一カ月もすると新しい食堂が完成します。その5号館・2号館の跡地は、キャ

ンパスの中心で学生が集える広場に整理されます。本学を取り巻く厳しい状況の中、危機を乗り越えていくために一番大事なのは本学の存在価値を高めることにあります。学部、大学院等の教育を改善し、優れた卒業生を輩出していくことで、本学が教育研究機関として社会に高い価値を有していることを認められるのです。そのためには先生方の教育・研究の業績に対する恒常的な評価も考えていかなければならない課題であり、時間をかけて検討していきたいと思えます。

## 学長賞に森田教授、石垣教授、鬼頭監督、山本元次長



学長賞を贈られた（左から）鬼頭明監督、森田靖教授と右から2人目が石垣尚男教授、森田が故山本久雄次長夫人の寿美代さん

大学の平成二十七年度の学長賞は大学年度始め式の席上、森田靖応用化学科教授、石垣尚男経営学科教授、鬼頭明男子卓球部監督、故山本久雄・元システム管理部次長の四氏に後藤泰之学長から贈られました。

森田教授は、分子構造的にも電子構造的にも斬新なπ電子系有機分子を設計・合成して新しい有機電子材料の開発に取り組み、日本

化学会の第三十三回学術賞を受賞しました。卓越した先導的・開拓的な基礎研究業績を対象とする賞で、日本化学会の各賞受賞は本学として初の快挙です。

石垣教授は、約四十七年もの間、本学の教育研究の発展に貢献してきました。スポーツと視覚についての研究の第一人者で、特に研究内容を一般に分かりやすく伝える工夫をし、その人

柄もありマスメディアによく取り上げられています。本学の知名度向上に多大な貢献をしました。

鬼頭監督は、オリンピック選手として活躍後に指導者として卓越した能力を発揮し、二十七年、部をインカレで六度目の優勝に導きました。日本代表コーチとして参加した世界卓球選手権では、指導する吉村真晴選手が銀メダルを獲得。吉村選手のリオ五輪日本代表内定も指導者の力による

ものが多大です。

山本元次長は、昭和五十四年から本学の学事オンラインシステムを開発。平成十年の学事システム改変を中心となって実施し、二〇〇〇年問題もトラブル無く解決しました。学事システムの基盤を築いたほか入試システムを円滑に運営するなど大学全体のシステムの構築に多大な貢献をしました。本年一月一日に急死され、賞は夫人の寿美代さんに渡されました。

# 4 設置校で卒業式

学園の各設置校の平成二十七年度卒業式は、三月一日に名電高校、十七日に附属中学校、十八日に専門学校、二十三日に大学の日程で開かれました。巣立ちの日を迎えた生徒たちは、希望を胸に思い出深い校舎を後にしました。

## 大学

八草キャンパス 鉦徳館で行われ、総数一二九一人に後藤泰之学長から卒業証書・学位記が授与されました。大学の卒業生および学位取得者数は累計で六万三一九五人になりました。

の言葉を贈りました。卒業生を代表して今堀江里沙さん（建築学専攻）が「これからもより一層の向上に努め、愛知工業大学卒業生としての自覚と自信を持ち、社会に貢献いたします」と謝辞を述べました。

## 専門学校

後藤学長は、式辞で「本学の教育モットー『創造と人間性』の意味を皆さんにもう一度考えていただきたい。そして本学で修得した学識や、身につけた豊かな人間性を發揮して社会の発展に積極的に寄与されることを期待しています」と述べました。後藤淳理事長も挨拶し、卒業生にはなむけ

六十九人が卒業しました。稲垣愼二校長が卒業生の代表に卒業証書を手渡し「本校で学んだ技術や知識を生かし、一層の研鑽努力を積み、社会の発展に貢献できるエースになられることを心から願っています」と式辞を述べました。

## 高校

同校の喬徳館で開かれ、科学技術科百五十七人、情報科学科四十人、普通科四百三十人の合わせて六百二十七人が巣立ちの式に臨みました。

久保芳孝校長は各代表に卒業証書を手渡し、アップル社創業者の故スティーブ・ジョブズの座右の銘に触れ「『Stay Hungry, Stay Foolish』を『いつまでも高い志を持って。いつまでも謙虚に、生涯学び続ける人間であれ』と訳します。志を持って生涯学び続け、潤いのある豊かな人生を歩まれることを」とはなむけの言葉を贈りました。後藤淳理事長も「平和な日本の未来が君たちの肩にかかっている」と激励しました。

## 中学

淳和記念館三階体育館で開かれ、百二十一人が卒業しま

した。代表に卒業証書を手渡した久保校長は、式辞でルイス・キャロル「不思議の国のアリス」の主人公とチェシャーカーキットの会話を引用し「どの道を進むのか、自分で決めるのが志を立てるといふこと。未来を選ぶのは皆さん。人生の主人公は自分自身でなければ」と語りかけました。後藤淳理事長も「君たちがいかに人間関係を広げ、何を成し遂げていくか楽しみに見守りたい」と期待を寄せました。

## 24人が定年退職

平成二十七年度定年退職者辞令交付式が三月二十九日、八草キャンパス本部棟で開かれ、後藤淳理事長が退職者二十四人の労をねぎらいました。一人ひとりに辞令を交付し、後藤泰之副理事長からは記念品が手渡されました。

後藤理事長は「皆さんの思い出が学園の歴史をつくります。取り巻く環境が厳しさを増す中、まだ皆さんにご協力をお願いする場面が多いと思います。お元気なうちは足を運んでいた



後藤理事長らと記念撮影する定年退職の皆さん

定年退職者は次の皆さん【大学教員】井研治、一柳勝宏、早川芳宏、内田誠之、成田国朝、正木和明、神谷清仁、山田岳志、森昌弘、水谷充、小林正、水野忠則【高校教員】玉置輝男、佐野博道、織田秀彦、坂倉富行【事務職員】寄川修、河村勝正、佐藤重明、佐藤正治、酒井保、重田百合子、工藤公司、青山春樹



卒業証書を受け取る大学工学部代表



卒業証書を受け取る専門学校の代表



卒業証書を受ける高校情報科学科代表



卒業証書を受け取る附属中学の代表

学園各設置校の平成二十八年度入学式は、四月二日の大  
学を皮切りに、六日の名電高校と附属中学校、八日の専門  
学校と、順次行われました。新しい仲間を迎え、学園に再  
びにぎやかな季節が巡ってきました。

## 各設置校で入学式



大学の入学式に臨んだ新生たち

込める何かをまず見つけて  
ください。本学には高度な  
専門的知識を身につけたエ  
キスパートがたくさんいま  
す」と新生たちに語りか  
けました。

大学に一四五七人  
八草キャンパスの鉦徳館  
で開かれ、工学部、経営学  
部、情報科学部の三学部  
に合わせて一三四七人、大  
学工学研究科と経営情報科  
学研究科に合わせて九十四  
人が入学しました。また学  
部三年次への編入は十六人  
でした。

後藤泰之学長は、式辞  
で「社会を支えてきた価値  
や仕組みが大きく揺らいで  
います。時代の転換期にこ  
そ若い人たちの力が必要で  
す。周囲の状況や時代の風  
潮に流されることなく、落  
ち着いて興味を持って打ち

続いて名古屋電気学園の  
後藤淳理事長が「ものづく  
りが日本が存続するための  
条件であり、加えて教育の  
場で人間性が重視される時  
代になった。入学された皆  
さんは、それぞれの学科で  
自分のためになる知識をつ  
かみ取り、立派な社会人に  
育ってほしい。日本の将来  
を託す若者が育つよう、保  
護者の皆さんと共に見守っ  
ていきたい」とあいさつし  
ました。

高校には六二六人  
喬徳館で行われ、普通  
科四百五十八人、専門学  
科（科学技術科、情報科学  
科）百六十八人の合わせて  
六百二十六人が入学しまし  
た。  
岩間博校長は「社会に出  
ると、人としての幅広い力

が問われます。高校時代に  
身につけた考え方や体力・  
気力、仲間とのネットワー  
クが、その根底となります。  
失敗を恐れず、周囲の人々  
の助言に耳を傾けて何度で  
もやり直し、できることを  
一つ一つ積み上げていくこ  
とが大切です」と式辞で述  
べました。

この後、後藤淳理事長が  
挨拶に立ち「力いっぱい突  
き当たっていきける目標を見  
つけてほしい。自分が本当  
にやりたいものは何か、三  
年間で探ることが一番良い  
高校生活になる」と新生  
を激励しました。



国歌斉唱する名電高校の新生たち

中学は一〇四人が入学  
淳和記念館三階体育館で  
行われ、百四人が入学しま  
した。岩間博校長が式辞の  
中で「学校は失敗や間違い  
から学ぶところ。簡単にあ

きらめないでください。学  
校が誰にとっても居心地の  
良い場所であるよう、周り  
への気遣いを忘れず、常に  
高め合える雰囲気全員の一  
力をつくってください」と  
呼び掛けました。

続いて後藤淳理事長が  
「中学の三年間は一番の成  
長期。どんどん知識や経験  
を吸収し、立派な社会人に  
なる基礎を築いてほしい。  
元気にスタートを切ってく  
ださい」と励ましの言葉を  
贈りました。  
専門学校への入学者  
定員上回る一二五人

同校四階の大教室で行わ  
れ、百二十五人が入学しま  
した。稲垣慎二校長は式辞  
の中で「まず着実に資格を  
取るなどして、実践力と自  
信を身につけていただきたい。  
これまで卒業した学生  
は平均七個の資格を取得し  
たので、皆さんは八個以上  
の取得を目指して」と期待  
の言葉をかけました。

入学者は前年度より十八  
人多く、平成四年の開校以  
来、初めて入学者数が定員  
を上回りました。開校の年  
に三百二十人でスタートし  
た定員は、学科・専攻の改  
編に伴って段階的に見直

され、二十四年から現在  
の百十五人になっていま  
す。同校には愛工大への特  
別推薦編入学制度があり、  
十八、二十七年の十年間で  
八十七人の学生が愛工大を  
はじめとする大学に編入学  
しています。稲垣慎二校長  
は「やはり愛工大への編入  
学が大きなポイントになっ  
ていると思う」と話してい  
ます。

あいわ幼稚園で卒・入園式  
姉妹学園・あいわ幼稚園  
（名古屋市長東区）の卒園  
式は三月十九日に開かれ、  
九十七人が楽しく過ごした  
園舎を巣立ちました。  
はかまなどお祝い着に身  
を包んだ卒園児たちは、一  
人ひとり名前を呼ばれて中  
川真紀子副園長から修了証  
書を手渡され「自信を持っ  
て小学校に進んでくださ  
い」と励まされました。

入園式は四月九日に行わ  
れ、九十七人が仲間入り。  
後藤泰之園長（愛工大学長）  
が「幼稚園では先生がみん  
なのお母さんです。困った  
ことがあったらすぐにお話  
してくださいね。元氣よ  
く通ってきてください」と  
語りかけました。

若水・八草・春日井

# 施設整備進む

## 瑞若スポーツセンター



若水キャンパスに初めて整備されたグラウンド  
(後方はナゴヤドーム)

若水キャンパス内で「瑞若スポーツセンター」として一体整備していた体育館とグラウンドが完成、四月五日に現地オープンニングセレモニーを開きました。

完成した体育館は若水キャンパスで三施設目となる体育館で、鉄筋コンクリート造(二部鉄骨造)二階建て延べ一八五四・六平方メートル。二階がアリーナで、主に体育の授業や部活動に使用されます。一階にはサッカー、陸上競技、軟式野球、ゴルフ、ソフトテニス、スキー、アーチェリー、駅伝、チアリーディングの各部室があり、シャワー室や更衣室も設けられました。グラウンドは若水キャンパスで初めて整備され、一周約二五〇メートルのトラックと一〇〇メートルの直走路のほか、フィールドにはフットサルコートとテニスコート各二面を備えています。

## 後藤淳記念球場



テープカットする後藤泰之理事長(右から2人目)ら

高校野球部が練習場として使用している春日井総合運動場の野球場を全面改修し、五月十五日に現地でオープンニングセレモニーを行いました。昭和五十二年開設以来の大改修を受けた球場は、野球部創設期に部長を務めた現学園長・

総長の名前を冠して「後藤淳記念球場」と命名されました。西側で行われていた区画整理の余剰地を取得し、ライト方向に約一五度回転させる形で拡張。本塁から両翼まで一〇〇メートル、中堅まで一二二メートルの規模で、阪神甲子園球場を上回ります。ファウルエリアも多彩な練習メニューに対応できるよう幅一五・五メートルに広げられ、二階に観覧席がある本部席棟や一、三塁側のベンチ、ブルペンなどは造り直しました。この日はテープカットや後藤泰之理事長による始球式に続き、部員たちが富山第一高校とのオープンニングゲームで新しいグラウンドの感触を確かめました。

## セントラルテラス



完成を祝いテープカットする後藤理事長ら

八草キャンパスの5号館・旧2号館跡地で建設していた新食堂棟「セントラルテラス」などが完成し、五月三十日正午から利用が始まりました。セントラルテラスは鉄筋コンクリート造二階建て、延べ一四一四平方メートル。一階に屋内外三七七席の「カフェ&レスト セントラル」、二階に屋内外二四八席の「マイティーハウス」が、それぞれキャンパス内から移転しました。二階にはバーベキューにも利用できる多目的スペースが設置されました。オープンニングセレモニーでは後藤泰之理事長らによるテープカットに続き、新メニューの試食会がありました。隣接して整備した二七〇〇平方メートルの広場と併せ、キャンパス中心部の新たな憩いの場が誕生しました。



新メニューの「鶏天丼」(上)と「みそカツ定食」

## 愛和学園50周年

姉妹学園の愛和学園創立五十周年記念祝賀会が四月二十七日、名古屋・栄の名古屋東急ホテルで開催され、学園関係者五十三人が出席して半世紀の節目を祝いました。

学校法人愛和学園は昭和四十一年から名古屋市名東区神里で「あい幼稚園」を運営する一方、同四十六年から平成二十三年にかけて専門学校の「都市デザインカレッジ愛知」(旧名称「中部測量専門学校」)、「愛知工業専門学校」を設置しました。祝賀会では、挨拶に立った後藤泰之理事長(愛工大学長)が学園の歴史を振り返り、来るべき百周年に向けて結束を呼びかけました。



半世紀の節目を祝った祝賀会

# 吉村真晴選手ら学園表彰

## 世界卓球、銀に貢献

大学男子卓球部の吉村真晴選手（平成二十七年年度経営学科卒業）は二月二十八日～三月六日にマレーシア・クアラルンプールで開かれた世界卓球選手権団体戦に出場、三十九年ぶりとなる男子の銀メダル獲得に貢献しました。学園は吉村選手と卓球部の功績を称えて三月三十日に八草キャンパスで学園表彰を行いました。



学園表彰の場で卒業証書を授与された吉村選手

## 「選抜」 中学卓球部4連覇、高校も2連覇

附属中学校卓球部は第十七回全国中学選抜卓球大会の決勝戦（三月二十七日・北九州市立総合体育館）で野田学園に3-0で勝ち、同大会四連覇。名電高校卓球部も翌二十八日、郡山市総合体育館で開かれた平成二十七年年度全国高校選抜卓球大会の決勝で野田学園を3-0で破り、同大会二連覇を成し遂げました。両部に対する学園表彰は五月六日、若水キャンパス南校舎で行われました。



4連覇の中学卓球部



2連覇の高校卓球部

後藤泰之副理事長から両部の指導者一人ひとりと選手代表に表彰状などが手渡され、クラブ活動後援会の高橋治朗会長からも激励の言葉が贈られました。これを受け、高校卓球部の今枝一郎監督が「昨年夏のインターハイ準決勝で野田学園に負け、リベンジの場だとも選手も燃えていました。一月の全日本選手権ではジュニアの部で木造が優勝、松山、高見がベスト8に入り、徐々に力もつけての大会でしたので、自信を持って大会に臨むこと

吉村選手は準決勝まで五戦全勝、勝負どころの接戦も制し、男子日本代表チームの決勝進出に大きく貢献しました。後藤淳理理事長から表彰状を手渡された吉村選手は、日本代表に内定しているリオデジャネイロ五輪に向け「愛工大卒業生として立派な姿を見せられるよう頑張ります」と決意と謝辞を述べました。競技活動で卒業式に出席できなかった吉村選手には、学園表彰の場で後藤泰之学長から卒業証書・学位記が授与されました。同席

ができました。大会を通しては全試合3-0で勝ち、数字的には圧勝でしたが、一つ一つは接戦ばかりでした」と優勝報告しました。中学卓球部の真田浩二監督も「初日の予選リーグ二試合は全員が不安の残る内容でしたが、二日目決勝トーナメント一回戦では見違えるようなパフォーマンスを見せ、選手・応援団が一致団結して戦うことができました。これでチームに勢いが付き、ストレートで優勝を決めました」と振り返りました。

した後輩部員たちからも寄せ書きの色紙を贈られ「選手としてだけでなく人間としても成長できました」と母校の四年間を充実した笑顔で振り返りました。吉村選手は拠点を東京に移し、プロ選手として新たな道を歩み始めました。「世界大会決勝で大きな壁にぶつかったのも自分にとってプラスでした。学園の中で向上できた人間力を、ファンにも伝えられるような大きな選手になりたいです」と力強く抱負を語っています。

学園では国内外の主要な大会で活躍する学生、生徒が相次いでおり、大学ラグビー部と大学競技スキー部の四方元幾選手も三月に学園表彰を受けています。



プレーする今井大湧君。 出展：日本財団パラリンピックサポートセンター <https://www.parasapo.tokyo/news/22/> 写真提供：X-1

高校バドミントン今井君障がい者大会で優勝 名電高校バドミントン部の今井大湧君（三年）が二月に久留米市で開かれた第一回日本障がい者バドミントン選手権大会の立位・上肢障がいクラス男子シングルルスで優勝し、四月七日に学園表彰を受けました。今井君は六月二十二～二十六日にアイルランドで開かれるアイルランド・パラバドミントン・国際大会2016の出場権を得るなど世界の舞台に踏み出そうとしています。後藤尚之学園事務局長から表彰状を手渡され「インターハイにも出られるように頑張りたい」と決意を述べました。

# ロボカップジャパンオープン 2016 愛知

## 294 チームがロボット技術競う



サッカー

自分で考えて動く自律型ロボットの競技会「ロボカップジャパンオープン2016愛知」(愛知工業大学、ロボカップ日本委員会、ロボカップジュニア・ジャパンによる開催委員会主催)が三月二十五〜二十七日の三日間にわたり、八草キャンパスで開かれました。

この大会は「2050年までに人型ロボットで人間のサッカーワールドカップ優勝チームに勝利する」という目標を掲げた国際プロジェクト・ロボカップの日本大会。海外の強豪を含む八十一チームが参加し、サッカー、レスキュー、@ホームの各競技で白熱した対戦を繰り広げました。

レスキュー



@ホーム



世界の大会出場チームの選抜を兼ねたロボカップジュニアも同時開催され、次代を担う二百十三チームがサッカー、レスキュー、ダンス、CoSpaceの各競技に参加しました。会期中、キャンパスが無料開放され延べ一万余人にぎわいました。



高校同窓会会長に永井氏  
愛知工業大学名電高等学校同窓会の平成二十八年役員総会が五月二十七日、名古屋市内で開かれ、四十二人が出席しました。役員改選を行い、新しい会長に副会長の永井広明氏(写真④)、新副会長に監事の今津孝氏(写真⑤)らを選出しました。それぞれ選出しました。ま

## 愛名会総会 日経編集委員・滝田氏が講演

学園の後援組織・名古屋電気学園愛名会の平成二十八年年度総会が五月二十七日、名古屋東急ホテルで開かれ、会員や学園関係者ら二百九十人が出席しました。

挨拶に立った佐々木眞一会長は、二十七年の就職交流事業などに触れ「本会の目的を達成するため、より活発化していきたい」と協力を呼びかけました。続いて、名誉会長に就任した学園の後藤泰之理事長が、三月に開かれたロボカップジャパンオープン2016



川千行氏(63) (写真⑥)が新たに副会長に決まったことや、二十七年の事業や決算、二十八年の事業計画や予算などが報告されました。

この後の講演会で、日本経済新聞編集委員の滝田洋一氏が「乱気流の中の日本経済」企業と家計の戦略を

愛知への協賛など、会員企業への支援に対して感謝の言葉を述べました。

総会では、清水建設専務執行役員・名古屋支店長の岩屋千行氏(63) (写真⑥)が新たに副会長に決まったことや、二十七年の事業や決算、二十八年の事業計画や予算などが報告されました。

この後の講演会で、日本経済新聞編集委員の滝田洋一氏が「乱気流の中の日本経済」企業と家計の戦略を

た、十一月六日に行うホームカミングデーなどの平成二十八年度事業計画や予算案などを了承しました。

新会長に就任した永井氏は昭和五十一年卒業で、席上「葛谷前会長の指針を引き継ぎ、皆さんとの絆をつないでいくことを念頭に同窓会の運営に当たらせていただきます」と述べました。

熊本への義援金託す  
学園の後藤尚之事務局長は六月一日、名古屋市中区の中日新聞社会事業団を訪



坂井理事長に義援金を託した後藤事務局長(右)



講演する滝田編集委員

探る」と題して一時間話をしました。

滝田氏は伊勢志摩サミットでの安倍首相の問題提起や消費増税、米大統領選のトランプ旋風などを例に示しながら内外経済の現状と展望を解説。「世界がしのぎを削る第四次産業革命の分野で日本が勝てるかは、今年から数年が勝負の分かれ目」と結びました。